

有終の美！ 荒定最後の卒業式



荒尾・岱志高校
定時制便り

2016年度第7号
編集・発行
荒尾・岱志高校
定時制

3月1日(水)に卒業式が行われました。今年閉校する荒尾高校にとっては最後の卒業式です。今年の卒業生は女子3人。式には全員が袴姿でのぞみ、例年以上に華やかさが感じられる式となりました。答辞では浜田さんが先生方、クラス

メイト、在校生への思いを語り、家族への感謝を涙ながらに述べ、多くの人の心が感動しました。荒定の卒業式は今年で最後となりますが、定時制の素晴らしい伝統は岱志高校へ受け継がれていくと感じられる式になりました。



卒業証書授与



平成28年度第66回 荒尾高校定時制卒業式



送辞

いつでも会いに来てください



答辞

卒業おめでとうございます！



花束贈呈

祝 荒尾高校定時制卒業式

校長 水元 義和

おめでとうございます。荒尾高校定時制第66回生の皆さん、卒業おめでとうございます。昨年4月、熊本地震が発生し大きな被害が生じるとともに、その後の生活や学校行事等も含めて熊本県内は混乱し、大きな影響が出ました。皆さんも、いつもの年とは違った多くの経験をし、改めて人と人とのつながり、絆を感じたのではないのでしょうか。

さて、皆さんは4年間本当によく頑張りました。69年の歴史を誇る荒尾高校生として有終の美を飾ってくれたと思います。そして、後輩たちへしっかりとつないでくれたことに感謝します。これからは皆さん一人一人の未来に向かって、夢を実現させるために精一杯生きてほしい。荒尾定時制で出会った仲間、先生、そして応援してくれた家族、お世話になったすべての人が「荒尾家族」です。「荒尾家族」という「絆」を大切にしながら、精一杯未来に挑んでほしいと思います。幸多き人生となりますよう祈ります。



答辞

校内の梅の花が、ひとときわ輝いて見える。この佳き日に、私たち三名のためにこのように心のこもった卒業式を挙行していただき、ましてまことにありがとうございます。また、ご多忙の中、御臨席くださいました来賓の皆様、校長先生をはじめ諸先生方、保護者の皆様、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

荒尾高校定時制に入学して4年の月日が流れました。畏かたという気もしますし、あつという間違ったような気もします。入学したころは、卒業するのは簡単で、当たり前のことだと思っていました。ところが学校生活を続けるうちに、その難しさを痛感していきま。昼間アルバイトをし、夕方から登校する。はじめは順調でしたが、慣れてくるにつれて、家でゆつりしたい、友達と遊びたいという気持ちが強くなってきました。欠席する日も増え、単位の心配もされるようになっていきました。学校に来て楽しいことばかりでなく、さまざまなルールや人間関係にイライラすることもありました。何度も学校をやめたいと思い、先生からの電話に出ないという時もありました。しかし高校は卒業する、ただその気持ちだけは持ち続け、踏みとどまってきました。そして今日、私は念願の卒業証書を手に入れています。やり遂げたという達成感、卒業したという解放感、もう大丈夫という安心感など、さまざまな気持ちでいっぱいです。

思えばこの4年間、いろいろなことがありました。1年生のころは、とてもぎやかで、とてもおもしろい先輩たちにドキドキしながら学校に通いました。2年生では、定時制体育大会で卓球競技に出場し、ベスト8に入りました。

平成二十九年三月一日
熊本県立荒尾高等学校定時制課程
卒業生総代 浜田 香佳

私たちが荒尾高校定時制最後の卒業生となり、母校の名前がなくなってしまうのは寂しいですが、先輩たちから受け継がれてきた「荒尾家族」のよいところを、ぜひ岱志高校定時制が受け継いでいってほしいと思います。みなさん、どうぞよろしくお祈りします。

名残は尽きませんが、最後に皆さまの御多幸と、岱志高校のこれからの御発展をお祈りし、答辞といたします。

た。3年生からはじまった調理実習では、大好きな先生とおいしい料理をたくさん作って食べ、おなかいっぱいになりました。3年生の冬から、生徒会長になり、緊張しながらも、平気な顔をしてみんなの前で話をしました。早く卒業したいと思っていた学校ですが、友達や先生と話し、思いっきり笑った、楽しい思い出もたくさんある場所です。ここでの思い出を、私は決して忘れません。

先生方、欠席が続いたときなどは大変心配をおかけしました。無事卒業できたのは先生方のたくさん励ましや声掛けがあったからだと思います。本当にありがとうございます。これから別々の道になるけれど、自分を信じて、お互い頑張っていきたいと思います。在校生のみなさんへ、4年間は長いと思うけれど、長い分だけやり遂げた時の達成感は大きいです。がんばってください。お母さんへいつもありがとうございます。けんかする時もあるけれど、やっぱりお母さんは私の一番大事な人です。これからもよろしくね。